

# 認定 NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

## ORMZ ニュース第 142 号 (R5.6.7)

事務局：宮崎市生目台西 4-7-7（メール info@ormz.or.jp） 文責：日高良雄



**はじめに** 6月、梅雨の季節ですが、台風2号の影響で早くも各地で大雨となりました。被害のなかったことをお祈り申し上げます。皆様早めの対策等くれぐれもご注意ください。

さて、ニュース第142号では、巡回診療の活動報告、ヘルスポスト設置の進捗状況に加えて、4月と5月の巡回診療に同行された藤田医科大学医学部の学生さん2名と長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科所属の大学院生、鶴岡あゆみさんのご報告などを掲載しています。どうぞご覧ください。

皆様には引き続きのご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

### 会の経過報告等

・山元先生が久しぶりにザンビアに渡航されました。ご自身の労働許可証更新などザンビアでの活動に欠かせない手続きをされ、この機会に巡回診療スタッフとミーティングを行いました。山元先生から診察や処方薬の注意点などについて説明があり、活動参加者からは準備薬の追加などについて意見が出されました。スタッフは交代で活動に参加するため全員が一同に集まることはめったになく、みなが顔を合わせるととてもいい機会にもなりました。

・ヘルスポストの設置に向け業務が増大していることから、6月後半からもう一人日本人スタッフを雇用することとなりました。現地スタッフと共に、更なる活動の充実を目指していきます。



### 現地の状況、事務所だより（山本ひとみ）

#### 【ヘルスポスト設置の進捗状況】

現地視察を5月5日に行い、建設業者さんから再見積もり書が提出されました。これを受け、早速役員で協議を行い、建設業者の決定を行いました。この後、正式に契約を結び、保健省と覚書を交わし、具体的に建設を進めていきます。これからも引き続き進捗状況をお知らせします。

#### 【新型コロナウイルス感染症】

5月の感染者報告数ですが、ほとんどで情報確認ができませんでした。唯一11日に3人との報告を確認しています。少ない状況ですね。

#### 【巡回診療】

##### 5月3日 ルアノ

- ・診療数 129 名、マラリア陽性数 127 名中 26 名 妊産婦検診 39 名 道中の診察 5 名
- ・主な訴え、疾患等：気道感染症、腰痛などからだの痛み、下痢、皮膚疾患
- ・重症例：なし
- ・他の医療機関への紹介：なし
- ・5歳未満の小児 46 名が予防接種を受けた。予防接種の種類と接種した人数：MRV(はしか)：6、

IPV(ポリオ):3、PCV(肺炎):32、ROTA(ロタウイルス胃腸炎):35、DPT(三種混合):38

- ・到着したら横たわっている男児が一人。検査したところマラリア陽性だった。
- ・2ヶ月の赤ん坊を連れて人がファミリープランニング希望で来訪。授乳中であり、ファミリープランニングには早すぎることを説明。納得してもらった。
- ・帰路、女性二人が1歳5か月の女兒を抱えて待っていた。遊んでいて鋭いもので指を切り、出血がひどい状態。傷口の消毒と止血をし、翌日チペンビクリニックに行くことを勧めた
- ・先月チペンビに搬送した女性。搬送した翌日に血圧も安定し、帰宅したとのこと。血圧を測定したところ138/91。今後も血圧に注意するよう助言。話をしたところ、搬送となった日は、アルコール飲みすぎとお金のことで夫と口論、激昂し、血圧が上がってしまったらしい。

### **5月10日 サンダラ**

- ・診療数77名、マラリア陽性数40名中19名、妊産婦検診19名、道中の診察0名
- ・主な訴え、疾患等：気道感染症、腰痛などからだの痛み、下痢、寄生虫感染、のどの疾患
- ・重症例：なし
- ・他の医療機関への紹介：なし
- ・5歳未満の小児21名中20名が予防接種を受けた。予防接種の種類と接種した人数：MRV(はしか):8、IPV(ポリオ):2、PCV(肺炎):8、ROTA(ロタウイルス胃腸炎):8、DPT(三種混合):8
- ・到着時誰もおらず、1時間くらいしたら人がやってきた。受付は14時までとし、早く来るように促す
- ・マラリア検査や血圧・体温・体重測定用の屋根付きの場所が、新しく作られていた。少々狭いが、人が座る場所が作られていた。
- ・道中草ぼうぼうで、道が全く見えない場所があった。草刈りを依頼。
- ・カルテ用ノートの保管問題。ネズミにかじられ、ノートが使用不能の状態のものも多数あり。糞尿もかかっており、においもひどい。衛生的にも良くない。カルテを探す人にも手袋着用の必要性を感じる。

### **5月17日 リテタ 途中引き返し**

- ・Chongwe Chitemalesaからのルートの方が道が良いと聞き、新ルートで出発。
- ・4roadからMunyeta Health Post, Munyeta Primary Schoolを経て、15kmのところトラックがスタックし、道路をふさいでいた。その横を通り過ぎることは可能だったが、その先道幅が非常に狭く、地盤も緩いところがあったため、中止を決断。ルサカに引き返した。
- ・ルアノ郡チミカヘルスセンターのGivenさんがワクチン持参で現地に来てくれていた。ルアノ郡との初共同活動がキャンセルとなってしまい、残念。だが、連絡が取れるようになったので、今後もコラボしていきけるようにする。

### **5月24日 ニャンカンガ**

- ・診療数187名、マラリア陽性数21名中13名 妊産婦検診18名 道中の診察0名
- ・主な訴え、疾患等：気道感染症、皮膚疾患(疥癬)、腰痛などからだの痛み
- ・重症例：50代SMAGsで活躍してくれている女性。立つこともできない状態。めまいを訴えている。マラリア検査陰性、血圧は少し高いくらい。点滴をしても改善は見られず、ムワプラヘルスポストに搬送。
- ・他の医療機関への紹介：なし
- ・5歳未満の小児104名中38名が予防接種を受けた。予防接種の種類と接種した人数：MRV(はしか):7、IPV(ポリオ):9、PCV(肺炎):31、ROTA(ロタウイルス胃腸炎):22、DPT(三種混合):31、BCG:6
- ・ファミリープランニングは1月に出産した人が数人来ていた
- ・早産の男児。先月から0.4kgの体重増加。高カロリー高蛋白サプリメントの支援を継続。鼻中隔欠損症のため、Beit CURE Hospital of Zambiaに行くことを母親に勧めた。
- ・体重・体温・血圧測定の後、診察に回ってもらい、必要な人はマラリア検査を受けてもらうようにしたと

ころ、人の流れはスムーズになった。

## 巡回診療同行報告

### 4月26日ニャンカンガ地区巡回診療に同行して（北川結惟さん、佐藤祐一郎さん）

お世話になっております。藤田医科大学医学部6年の北川結惟です。先日は佐藤君と共にニャンカンガでの診療に同行させていただき、本当にありがとうございました。何もかもが初体験で、非常に強い衝撃を受けました。ザンビアで経験したことを決して忘れることなく、これからも精一杯頑張りたいと思います。感想をまとめさせていただきました。拙いですが是非読んでいただくと嬉しいです。



藤田医科大学医学部6年の北川結惟と佐藤祐一郎と申します。我々は、2023/4/26にニャンカンガへのモバイルクリニック往診に同行させていただきました。ニャンカンガが一体どのような場所であるか、どれだけの人が住んでいるのか、どのような医療行為を行うのか、ほぼ事前情報もないまま参加させていただきましたが、生涯忘れることのできないような衝撃的な一日となりました。

まず、到着時にレンガ造りの診療所をみて、ここで一日の診療が始まるのかと驚きました。村のみさんの多数は血圧や体温測るのも生まれて初めてで、数時間かけて診療所まで歩いてくると仰っていて、何もかもが我々の故郷である日本の暮らしと異なっていました。また、ランドクルーザーで凸凹道を3時間行った先の場所にもかかわらず、気が付けば100人を超える患者さんが集まってきていたことにも驚きました。



モバイルクリニックが発足したきっかけについてお尋ねした際に、致死的な疾患では無いはずのマラリアで亡くなっている方が多くいる現状をどうにかしたいという思いが元になっていると伺いました。今回診療を見学させていただいて、マラリアの検査で陽性になり、薬を飲んで回復する患者さんを実際に目の当たりにし、訪問診療の存在意義がとても大きいことや発足のきっかけとなった思いが達成されていることを実感いたしました。



診療所には妊婦さんや子供の検診で来られている人が多かったことも印象的で、お母さんが子供の健康を心配しているのは世界共通だなと強く思いました。子供たちにワクチンを打つことはザンビアの将来の為にもとても重要だと思ったと同時に、ザンビアの平均寿命が上昇している背景には、貴団体のご活躍やザンビアの医療状況が向上しつつあるという事実があるのだなと感じました。

また、地域で村の人の体調の相談に乗る職業であるコミュニティヘルスワーカーさんたちのご活躍は、想像していた以上のものでした。月に一度のモバイルクリニック往診でもらった薬を体調不良の方に渡したり症例の数をまとめていたり、僻地医療ならではの欠かせない存在だなと感じました。

医療の届きにくい地域にもヘルスポストが増えてきていたり、他国の援助などにより飢餓で無くなる子供は以前より格段に少ないことなどのお話を伺い、ザンビアの医療事情は向上してきているという印象を受けました。また、一日を通してモバイルクリニックはへき地の人たちにとって不可欠だと感じましたが、ザンビア以外の国では行われていないというお話にも驚きました。

遠い異国の辺地で、自分たちが普段暮らしている生活の“当たり前”と180度違う生活をしている人達とお話をし、様々なことを考える一日となりました。時間の流れ方も幸福度の感じ方も違う私たちでも村の方たちと一緒に笑いあえたことがとても幸せでした。いろいろな思いを噛みしめながら食べたシマとビレッジチキンの味は、ザンビアで食べた食事のどれよりも美味しく忘れられない思い出になりました。



最後になりますが、この度は貴重な経験をさせていただく機会を頂き、心より感謝申し上げます。学生の中にさせていただいたこの経験と感じた思いを胸に、今後医者として貢献できるよう精進します。

## **5月24日ニャンカンガ地区巡回診療に同行して（鶴岡あゆみさん）**

ニャンカンガの診療に同行いたしました。

研究内容が救急医療と言うこともあり7ヶ月も住んでいますがルサカから出たことがなかったのでザンビアの僻地に行くのは初めてでした。

1時間ほど車で進むとアスファルトの道は終わりガタガタした土の道が始まります。

アフリカは平地だと思っていたのですが、道の向こうに山が見えたりと、ルサカでは味わえない景色が広がりました。ブッシュの中を進むランドクルーザー。標識もない獣道のような道をただただ進んで行くのですが、ドライバーさんは一体何を目印に進んでいるのか全くわかりませんでした。車に揺られ続けて3時間半、目的地ニャンカンガに到着です。開けた土地に平家の煉瓦造りの建物がありました。そこには、チテングを身にまとった女性と子供が数名待っていました。

到着して荷をおろし診療の準備をします。といっても、私は現地のコミュニティヘルスワーカーが到着するまで、血圧測定係です。私たちより先に到着していた患者さんの診療前に体重や血圧を測っておきます。受付と薬局、診察、妊産婦検診、ファミリープランニングは建物内で、血圧、マラリア検査、予防接種、子供の体重測定は木陰で行います。暑さを気にしていたのですが、木陰は日向に比べだいぶ涼しく心地よかったです。ザンビアの公用語は英語ですが、地方に行けば現地語しか喋れない人の割合は増えていきます。普段いる病院でも患者さんの中にはニャンジャ語しか喋れない方はいます。そのおかげで少しですが、ニャンジャ語で挨拶できるようになりました。

同じ血圧測定のブースにいたコミュニティヘルスワーカーさんにニャンジャ語で挨拶したところ、この地域はまさかのトンガ語が主流とのことでした。コミュニティヘルスワーカーさんは英語が喋れるので安心ですが、患者さんには私が唯一知ってるトンガ語”トゥワルンバ”を使ってどうにかコミュニケーションを取りました。

最初は、閑散としていましたが徐々にコミュニティヘルスワーカーも患者さんも集まり始め血圧測定の渋滞が起こり始めました。建物の周りにも人が集まり、他のブースも大盛況といったところです。この人の集まりを利用し、食料や靴や服など商売をする人々もやってきます。

道中、家もちらほらしか見えなかったのに一体どこからこんなに人が集まってきたのだろうと不思議に思うくらい賑わいを見せ、到着直後からは想像できないくらい活気に溢れていました。

